

□ J P A 震災情報（第 29 報）-----2011.4.28*

-----発行：日本難病・疾病団体協議会（J P A）事務局

患者団体、関係者のみなさんへ

第 29 報をお届けします。

（水谷）

★明日から J P A で、被災地 4 県（岩手、宮城、福島、茨城）まわり

各県難病連、難病相談支援センターで懇談、現地調査と激励に

★全腎協が宮城に、被災 3 県現地対策本部を設置

★現地災害ボランティアセンターと連絡し、炊き出し隊を派遣！

ーとやま難病ネットワークの支援活動ー

【ニュースから】

★明日から J P A で、被災地 4 県（岩手、宮城、福島、茨城）まわり

各県難病連、難病相談支援センターで懇談、現地調査と激励に

J P A は、（財）北海道難病連の協力を得て、北海道難病連ワゴン車で、明日 29 日の岩手県難病連・難病相談支援センター訪問を皮切りに、宮古～石巻～仙台～福島～茨城をまわり、被災地の難病連・難病相談支援センターで懇談をする「被災地 4 県訪問」を行います。

伊藤代表が、北海道難病連の福田事務局長、カメラマンの新井さんとともにワゴン車で全行程をまわるなか、野原副代表が宮城から茨城までを、水谷事務局長が盛岡から福島までの行程で合流します。また、福島には栃木県難病連会長で J P A 幹事の玉木朝子さんも参加する予定。

主なスケジュールは次のとおり。

（当日の交通事情等で変更の場合あり）

・ 4 月 28 日（木） 札幌出発～函館

・ 4 月 29 日（金・祝） 函館～（フェリー）～青森～盛岡

岩手県難病連・難病相談支援センター訪問・懇談

・ 4 月 30 日（土） 宮古～石巻～仙台

NPO ホップ石巻被災障害者支援拠点（レラ）訪問

・ 5 月 1 日（日） 仙台～福島

宮城県難病連・難病相談支援センター訪問

（社福）ありのまま舎訪問

被災した宮城県難病連事務局長宅訪問

((独) 国立病院機構 宮城病院ALSセンター)

福島県難病連訪問・懇談 (福島市内)

・5月2日(月) 福島～筑波～水戸

福島県難病相談支援センター訪問 (福島市内)

茨城県難病相談支援センター訪問 (筑波大学病院内)

茨城県難病連訪問・懇談 (水戸市内)

・5月3日(火・祝) 水戸～秋田

・5月4日(水・祝) 秋田～(フェリー)～苫小牧～札幌

新聞報道などによると、避難所や医療機関での食事や環境が悪いことや、患者や被災地とともに、支援スタッフの疲労もたまってきているようです。

また、患者や障害者を抱える家庭は、避難所での生活に耐えきれず、やむなく壊れかかった自宅に戻ったり、車のなかで夜を過ごしている人たちも多いと聞いています。

難病や慢性疾患患者の多くは、支援の届かない自宅にとどまったり、あるいはまわりを気にしながら避難所で我慢してじっとしている人たちも多いのではないかと思います。

そういう人たちは、薬をちゃんと飲んでいるだろうか？食事で栄養をしっかりとっているだろうか？今、一番心配していることは何か、支援してほしいことは何か、等々。現地に行ってみなければわからないこと、被災者から直接聞かなければわからないことなどを、しっかり受けとめてきたいと思います。

現地にはPCをもっていきます。メールもネットがつながるかぎり、随時チェックをしております。また、必要な配信も行っています。

★全腎協が宮城に、被災3県現地対策本部を設置

(「全腎協ニューズレター」第31号2011. 4. 20震災特集No9より)

全腎協現地対策本部設置

全腎協では、4月14日(木)に宮城県多賀城市(宮城県腎協事務局内)に、現地対策本部を設置しました。岩手、宮城、福島3県を中心に、患者・会員の動向の把握や全腎協見舞金の申請と給付、県腎協組織の立て直しに向けた活動を支援します。理事が輪番で対策本部につめる(火曜日から金曜日まで)予定になっています。

住所：宮城県多賀城市鶴ヶ谷1-4-1(宮城県腎臓病患者連絡協議会事務局内)

電話：022-355-7537(宮城県腎協)

080-2076-4635 (吉村携帯)

Email : yoshimura@zjk.or.jp

★現地災害ボランティアセンターと連絡し、炊き出し隊を派遣！

ーとやま難病ネットワークの支援活動ー

カンパも、引き続きよろしくお願ひします！

第 26 報で紹介した「とやま難病ネットワーク」の支援活動では、「今必要なもの」物資の支援とともに、現地の災害ボランティアセンターとの相談で、炊き出し隊を派遣することにしたとの連絡が、中川さんからありました。

以下、同ネットワークの「今必要なもの」支援ブログから、紹介します。

<http://nanettoyama.jugem.jp/>

■いざ！宮城県南部山元町へ 炊き出し部隊出動！

(してくれてありがとう！)

2011.04.25 Monday | category:-0

情報があっちこっちから、電話もあっちこっちへ昨日の今日の話が、即実現しました。

青木先生からの「炊き出しは～」というフレーズに即ひっかかったわたし。

よっしゃあ～！今度は炊き出しだ～！と意気込んだ昨日。

まさかわたしが行けるわけではないのですが、

実はその情報は宮城県南部の山元町

<http://www.town.yamamoto.miyagi.jp/jishin/oojishin.html>

にある宮城病院のMSWとの電話のやりとりからはじまりました。

宮城病院は富山ゆかりの今井尚志（たかし）先生のいらっしゃる病院。

被災に関しては、「こちらは大丈夫だから、青木先生を支援して」とのお言葉をもらっていました。

しかし、！！現状は燦々たるもの。

MSWも風邪気味と過労気味、でも、しゃべるしゃべる。堰をきったように震災から今までのことを話してくれました。

こんなにも追い詰められて仕事をしているんだ！と。

内容は

山元町は町の半分が津波で流されたそうです。

地震のとき、山元町の災害地震計が壊れて海際に防災無線や津波の放送が流れなかったそうです。

もともと、気仙沼や石巻ほど津波に対する対策がなく、多くの人が波にさらわれたそうです。

小高い山のふもとにある宮城病院からは津波が見えて、国道の手前で津波は食い止められ、国道から山手は助かったのだそうです。

宮城病院に近い山元町の駅4つが地震で被災し、津波にのまれ現在も復興予定などもうとうたたないという話でした。

宮城病院内も、新築の病棟に引っ越したばかりでしたので、耐震はよかったが、エレベーターがとまってしまって使えず、1階、2階の患者を普段は降りるスロープをつかって三階へあげたそうです。

その他救急医療部が地震で大破し使えず、すべての診療が内科を中心として被災地医療となっているようです。事実避難所600人どころではなく、逃げられず在宅で津波にさらわれた方々が多数、在宅療養で被災した方々にはいまだ水も米も届かず、往診の先生方が運んでいる状態だそうです。

在宅を入れた被災者数は2000人規模になると話をしてくれました。

新聞にはあまり載らない地域の被災。とくに福島原発から60キロの宮城南部。

南相馬市からの患者も受け入れているとききました。電話したMSWも体調を崩し、風邪を引いていましたが、普段は物静かな彼女が怒涛のごとく現状を語る様子は、やはり現地はまだ被災が続いていると思いました。

目の前で患者や家族を失った看護師たちの仕事に対する喪失感が激しく。看護師の不足、メンタルケアの不足も訴えていました。

メディアでは物資は新品のものを！という情報でしたが、洗濯もできないので、古着で充分ですという話でした。

というわけで、今、私達ができることは、何かと考え、また即、支援物資を送りました。

送ったものは米、水、グレープフルーツ、トマトくさらないだとうとおもわれる昆布のかまぼこ、あと、すこち落ちついでいただくために、コーヒーもいれました。

そして、連結完了！

ついに山元町と富山の炊き出し部隊をつなぐことに成功しました！炊き出しにいくつくださるのは富山の「アジア子どもの夢」の川渕さんたち、大型バスで資材と食料を積んで週末土日で宮城の石巻を支援しておられた方々です。

その部隊が山元町に今週末4月29-30日と入ってくださいます。

また先日お伝えした氷見の商工会議所青年部の方々も調査には行ってくださいます。

いいことはつながる。

真心はつながる。

顔もしらない人達が私たちの声を聞いてはせ参じてくださいます。

いつもはおこがましくていえないことをみなさんに伝えます！

みなさん！直接支援の窓口です。

どうかお金を送ってください！よろしくお願いします。

口座は

郵便局で00710-8-56431

名義人は特定非営利活動法人難病ネットワークとやまです。

みなさんの善意！届けます！

当会のHPは <http://nannet.org/>です。

【ニュースから】

◎キャリアブレイン（CB）ニュースより

■被災した精神科医療機関、宮城などで94件

- 民主PTが厚労省からヒアリング（2011年04月27日 23:01）

<https://www.cabrain.net/news/article/newsId/33922.html>

民主政策調査会の「精神保健医療改革プロジェクトチーム（PT）」

（座長＝石毛えい子衆院議員）は4月27日、第6回会合を開き、厚生労働省から東日本大震災への対応についてヒアリングした。

厚労省は、岩手、宮城、福島で94か所の精神科医療機関が被災した状況について報告。岩手と宮城では一部の施設で復旧が進んでいるものの、福島の一部地域にある施設では復旧のめどが立っていないことも明らかにした。

厚労省によると、94か所の内訳は、岩手が21か所、宮城が37か所、福島が36か所。

このうち、被災後に診療ができなくなったのは10か所（宮城3か所、福島7か所）で、宮城の3か所では既に外来診療を再開している。一方、福島の7か所のうち、いわき地区にある2か所では既に外来診療を再開したが、福島第1原子力発電所から30キロ圏内にある

相双地区の5か所では診療再開のめどが立っていない。

記者団の取材に応じた石毛座長によると、福島県の病院の復旧のめどについて厚労省の担当者は、福島第1原発の事故の収束のめどが立たない現状では、復旧できるかどうかも分からないと答えたという。

仮設住宅で孤独になる人へのケアも

また石毛座長は、今後PTが取り組む内容について、「被災地では、復旧の第1段階から次のステップに移る。仮設住宅で孤独になる高齢者や青年が心的外傷後ストレス障害（PTSD）などにならないよう対策をする必要がある」と述べ、PTとして第2次補正予算も視野に必要な対策を検討していく考えを示した。

◎ JMM (Japan Mail Media) ホームページより

- 避難所生活の長期化がもたらしたもの 配信日：2011-04-19

石巻赤十字病院 植田信策

http://ryumurakami.jmm.co.jp/dynamic/report/report22_2368.html

- 石巻ローラー作戦についての報告：主観的な評価も交えて

配信日：2011-04-20 亀田総合病院 地域医療支援部 小野沢 滋

http://ryumurakami.jmm.co.jp/dynamic/report/report22_2370.html

- 東日本大震災でのDMAT医療支援活動雑感 配信日：2011-04-22

東京医科歯科大学大学院 救急災害医学分野 大友 康裕

http://ryumurakami.jmm.co.jp/dynamic/report/report22_2373.html

- いわきから亀田総合病院への透析患者受け入れ 配信日：2011-04-24

亀田総合病院腎臓高血圧内科 小原 まみ子

http://ryumurakami.jmm.co.jp/dynamic/report/report22_2374.html

★みなさまからの情報をお寄せください。

◎緊急な場合の連絡は水谷の携帯（090-8501-4281）までお願いします。

なお、メールは随時チェックしています。

JPAホームページ <http://www.nanbyo.jp/>

震災情報ブログページ <http://blog.goo.ne.jp/jpa2011>

(こちらに声をお寄せください)

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

日本難病・疾病団体協議会（J P A、Japan Patients Association）

事務局長 水谷幸司

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-28 飯田橋ハイタウン 610 号

電話 03-6280-7734 F A X 03-6280-7735

<http://www.nanbyo.jp/> jpa@ia2.itkeeper.ne.jp
